

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームビジョンを設定し、常に見える場所に掲示して、スタッフ全員が意識して取り組んでいる。	法人理念については玄関とユニット内に掲示し毎朝唱和を行い、共有と実践に繋げている。また、全体会議の席上振り返りの機会を持ち、利用者との関わり方の中で理念、ホームビジョンの持つ意味を共有出来ているかを確認し合い、支援の質の向上に繋げている。家族に対しては利用契約時に説明を行い支援方針を明確にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により実施が出来ていない	自治会に協力費を納め、回覧板より情報を得て地域の人々との交流を積極的に行っている。地区の「オレンジカフェ」への参加、地区の小・中学生との交流、職場体験の実習生の受け入れ、各種ボランティアの来訪等、関わりを持つ機会を持っていたが、昨年春以降新型コロナウイルスの影響を受け全て自粛状態が続き残念な状況となっている。新型コロナ収束後には改めて再開予定である。そのようなコロナ禍で難しい状況が続いているが、ホーム長に地元小学校より「認知症サポーター養成講座」講師の依頼があり実施予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により実施が出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面会議にて開催をしている。	例年であれば利用者代表、家族代表、地域包括支援センター職員、市高齢者活躍支援課職員、あんしん(介護)相談員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回奇数月に開催し、状況報告、活動報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げているが、現在は新型コロナウイルスの影響を受け書面での開催となり資料を会議メンバーに郵送し電話にて意見をいただくようにしている。また、新たに「薬局」「福祉用具取り扱い会社」の2名が運営推進会議のメンバーに加わり周りの他施設の情報等も収集し運営の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換をさせて頂いている。また、不明な点、相談したい点があれば、電話、直接訪問し、意見交換をさせて頂いている。	市高齢者活躍支援課に訪問し不明な点等の問い合わせをしている。地域包括支援センターとは入居関係の相談を行い、「オレンジカフェ」の活動も共に行っている。介護認定更新調査は現在コロナの影響を受け通常更新の場合は自動更新となり、区分変更が必要な方のみ調査員がホームに来訪し職員が対応して行っている。あんしん(介護)相談員の来訪も新型コロナ禍で中止の状況が続いているが、収束後には再開予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で勉強会を実施、チェックシートの活用、強化週間を設ける、注意喚起でスタッフの意識を高める等の取り組みを行っている。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。ホーム内に身体拘束廃止委員会を設け内部研修を行い、拘束に対する意識を高め拘束のない支援に取り組んでいる。転倒危険のある利用者が数名おり、家族と相談し安全確保のため人感センサーを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で勉強会を実施、チェックシートの活用、強化週間を設ける、注意喚起でスタッフの意識を高める等の取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で権利擁護に関する勉強会を実施し、スタッフ全員に周知、理解、活用できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書等の読み合わせをさせて頂き項目ごとに理解、同意して頂けるよう説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、運営推進会議等ホームに来られた際には積極的に意見・要望をうかがえるよう心掛けている。また、ホーム、法人で相談窓口を設置して頂いたご意見はスタッフ、上司に報告し周知及び改善に向けた検討をしている。	意思表示の難しい利用者があり家族からお聞きした情報も参考に表情や仕草を見て要望を受け止めるよう努めている。家族の面会はコロナ禍の状況を受け一部制限を設けながら行っているが、事前に予約を頂きながら玄関と相談室で15分間の面会を行っている。また、利用者のホームでの生活の様子は毎月写真入りで、利用者毎に「入居者様の様子情報」として作成しご家族あてにお届けし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時には連絡だけでなく意見等があれば話せる環境となっている。また、定期的にはスタッフと個別面談を実施し意見、提案を聞く機会を設けている。また、全社でスタッフに対するESアンケートを実施している。	月1回全体会議を行い法人本社よりの依頼に基づいての各種研修会の実施、ホーム長会議の連絡事項の周知等を行っている。合わせてユニット会議を開き、支援内容の確認、業務内容の確認等を行い支援の向上に繋げている。また、年1回職員の満足度調査が行われ職場の業務改善にも繋げている。更に、法人としてのキャリアパス制度があり、法人が定めた7段階の業務達成基準に基づき自己評価を行い、上長評価の後、年3～4回ホーム長による個人面談で意見、提案等を話し合いスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労時間、夜間休憩時間、時間外等、勤務実績を明確にしている。社内コンテストや表彰制度があり評価される機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議等のホーム内勉強会や法人主催の研修を定期的実施している。資格取得に向けた研修も実施しており、その支援制度も整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により実施が出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活歴や嗜好等の確認をさせて頂いている。また本人のお話を傾聴、受容して「安心・安全」に過ごしてもらうための信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に普段の様子や困っていること、サービス利用にあたり要望や意向を確認しケアプランに反映させ同意を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、関係事業所等と連携し必要とされる生活課題を見極めている。意向に沿ったサービスが受けられるよう情報提供しながら検討をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることは積極的に行ってもらい、時には教えてもらったり共同で関われる支援をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事やイベント、畑作り等に参加、協力をして頂き、関わりを絶やさないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会者についてはスタッフが把握できるよう本人との関係を記録している。馴染みの場所等の関係性はコロナ禍により実施ができていない。	通常であれば友人や近所の方の来訪があり、また、北長野駅近くの総合ビルの中に地域包括支援センターと交流スペース、理美容院などがあり、地域の方々とお茶を楽しんだり洗髪を行って楽しいひと時を過ごしているが、現在は新型コロナの影響を受け自粛状態が続いている。収束後には再開予定でいる。年末には年賀状、夏には暑中見舞いのハガキなどを職員のお手伝いをいただき手づくりし、家族のもとへ郵送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が互いに馴染みの関係をつくれるよう座席に配慮している。時にはスタッフが間に入り交流することを促進している。1F、2Fも自由に行き来したり合同で行事を開催したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も今までの関係を大切に相談があれば応じる姿勢を示している。また関係事業所と連携を図りこれまでの情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のコミュニケーションを積極的にとり、その会話の中で希望・意向の把握をし、困難な場合は日頃の行動・言動、表情等から読み取るように努めている。	新型コロナウイルスの状況下、制約を受けながらの支援活動が続いている。そのような中、利用者の希望をどのように受け止めて行くかを考えながら日々の支援に取り組んでいる。飲み物、食べ物等は幾つか提案をし、洋服選びは一緒に居室に入り、季節に合わせた洋服を話をしながら選ぶようにしている。また、利用者の生活状況は個人記録としてスマートフォンから職員個々人がその都度入力し情報を共有し、必要な情報は確認しながら利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から家族等より情報を収集している。普段の会話の中、行動からも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に過ごし方や生活リズム、できること、できないことなど把握したこと、職員から見た気づきなど記録に残したり、連絡ノートを活用して共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見を聞いている。ユニット会議で職員の気づきを共有することで現実的な介護計画を作成している。	職員は1～2名の利用者を担当し居室の整理整頓等を行っている。新型コロナ禍という状況下、家族の希望は電話でお聞きしている。ユニット会議の席上毎月3名のモニタリングを行い、ケアマネージャーがケアプランの作成を行っている。基本的には長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月で見直し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、ユニット会議等で情報を共有し、実践や介護計画見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の維持・向上の為に専門職による指導や助言を受けて多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により実施出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人、家族の希望で決定している。かかりつけ医の希望がない場合には、協力医療機関と連携して協力を頂いている。	入居時に協力医があることを説明し、希望を伺うようにしている。現在、入居前からのかかりつけ医利用の方が若干名おり家族が受診にお連れしている。他の大半の方はホーム協力医の月2回の往診で対応している。また、訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携が取られている。更に、医師の往診時に運営推進会議のメンバーでもある薬局担当者が同席し、薬の打ち合わせも行っている。歯科については必要に応じ受診に対応し、月1回は歯科衛生士の指導を受け、口腔内のケアに繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションには24時間連絡がとれる体制となっている。また週1回、訪問があり健康チェックや相談をさせてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には訪問して介護サマリー等により情報提供している。入院中は定期的に訪問し、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに至ったことがないが、万事に備え重度化した場合の指針、看取りについての指針を入居契約時に説明し同意を頂いている。	重度化に対する指針があり利用契約時に説明し看取り指針の同意書にサインを頂いている。終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合い、医師より看取りに関わる診断について説明をしていただき、看取り支援に取り組んでいる。現在、看取り中の方がおり、新型コロナ禍ではあるが家族は2週間に1回は来訪され共に過ごされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、AEDを備えている。また対応やAEDの使い方など勉強会を開いて取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練を実施している。運営推進会議で有事の際には互いに協力頂けるよう呼びかけている。	年2回火災想定で避難訓練と通報訓練を行い、利用者全員が玄関先に移動して訓練を行っている。また、次回、一昨年の台風19号の経験から近くを流れる川の被害を想定し全員2階へ移動しての避難訓練を消防署と打ち合わせの上実施予定である。備蓄として「水」「非常用食料」などが2週間分あり、「石油ストーブ」「災害グッズ」等も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にケアチェックを行うことや、認知症に対する勉強会を実施することで、個別を尊重し、プライバシーに配慮したケアを実践できるよう努めている。	支援する中で全般にたり一方的にならないよう必ず利用者の同意を得るよう心掛けている。接し方は馴れ合いにならないよう親しみをこめ接するよう徹底している。入室の際には事前に許可を頂きノックと声掛けを忘れないようにしている。呼び掛けは本人の希望を聞いて馴染みのある苗字か名前に「さん」付けでお呼びしている。年1回プライバシー保護の研修会を行い、意識を高めより具体的に実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の希望を会話の中から聞き出してアクティビティ等、自己決定にて参加をして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを優先することなく、ご利用者を第一に考え、どのように暮らしていきたいかコミュニケーションの中から個別に希望を聞き出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出等のきっかけになるよう化粧や髭剃りなどの整容を出来る限りご自身でできるよう支援を行い、服装も自分で選んでもらうよう行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等、職員と一緒にいる、時には調理方法を教えて頂いている。行事や外出時は食べたいものを希望いただき、好きなものを食べられるよう支援している。	食形態については一部キザミ、トロミの方がおり、自力で摂取する方が三分の二、一部介助と全介助の方が三分の一という状況である。献立は法人の管理栄養士が作成したものをうい、調理スタッフが一部アレンジし提供している。利用者のお手伝いは力量に合わせ、盛り付け、食器洗い等に参加していただいている。外食が難しい状況が続いているが、秋～春にかけては「お寿司」、夏場は「お弁当」をテイクアウトし外の雰囲気を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を必ず記録し確認できるようにしている。変化がみられる場合には、主治医、看護師に相談しながら対応させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。義歯使用者は洗浄剤を用いて消毒を行う。ブラッシングは出来る限り自身で行い、必要に応じて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握、昼夜問わず個別にトイレへの声掛け、誘導、介助を行っている。	自立されている方が半数強、一部介助の方が数名、全介助の方が三分の一弱という状況である。スマートホンから入力した排泄情報を参考に、一人ひとりのパターンに合わせトイレにお連れしている。合わせて、おやつ前、食事前には定時の声掛けを行い、排泄の自立支援に繋げている。スムーズな排泄に繋げるため法人として水分摂取に力を入れ取り組んでおり、お茶、ゼリー、スポーツドリンク等で一日の水分摂取目標を1,500cc以上としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に体操を行ったり、水分摂取量の確認を把握し、便秘がちな方には主治医、看護師に相談をさせて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後に限らず希望の時間帯に入浴をして頂いている。時には入浴剤を利用したり季節によって菖蒲、柚子を準備し入浴しながら季節感を味わっていただいている。	一部介助の方が三分の二強、全介助の方が三分の一弱という状況である。基本的に週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方も数名いるが時間を変え、人を変え対応している。車いすの方もおりシャワーチェアを使って入浴を行っている。季節に応じ「ゆず湯」「菖蒲湯」等も行い、入浴後には好きな飲み物を飲みリラックスしていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度、湿度を必要に応じて調整し、その日に合わせて安眠できるよう配慮させて頂いている。昼間の活動、生活内容によって声掛けながら睡眠時間が適度にとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個々に職員が管理し服薬マニュアルをもとに服薬の介助を行っている。薬説明書をファイルし全員が閲覧、確認できるようにしている。服薬変更がある場合には、申し送りにて情報共有し変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや趣味など本人や家族より話を伺い本人が得意な家事やアクティビティを積極的に行える環境を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や本人の体調に合わせて散歩やドライブ、買い物に出かけられるようにしている。普段は行けないような場所でも、行事や個別支援によりできる限り希望に応じて支援している。	外出時、自力歩行の方が半数弱、一部シルバーカー使用と車いす使用の方が半数強という状況である。天気の良い日には地域の皆様と挨拶を交わしながらホームの周りを散歩している。地域行事にも積極的に参加していたがコロナ禍の状況が続き全て中止になり残念な状況となっている。このような状況下ではあるが、小さな飲食店(蕎麦屋、食堂)等を貸し切り、外食を楽しむ計画を立て行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは家族の同意のもとで事務所管理とさせていただいている。金銭管理ができる方には予測されるトラブルを承知の上で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に協力いただき、本人の希望があれば、自由に電話したり手紙を書いたりできるように支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や生活感を感じて頂けるよう壁面飾りや季節の花等を飾らせてもらっている。	玄関を入ると季節の飾り付けの「七夕」などの数多くの利用者の作品が迎えてくれる。ゆったりとしたスペースが確保されたホール兼食堂の大きな窓からは明るい日差しが差し込んでいる。そのような中、ソファに腰掛けテレビを見たり会話を楽しみ寛いでいる利用者の姿が見られた。また、ホールや廊下の壁には利用者の作品が飾られ、写真展示コーナーからホーム内での活動の様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いて誰でも自由に利用できるようにしている。個々のペースでお茶したり、会話したり、テレビをみたりと自由に過ごせる環境となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の持ち物説明時に、今まで使い慣れた家具、日用品等の持参を依頼し、居室が好みに合い自由に利用できるようにしている。	整理整頓が行き届いた居室は十分な広さが確保されゆったりとした感じがする。居室は利用者の自由な生活の場としてレイアウトされ使い慣れた家具、テレビ、家具調こたつ、仏壇等が置かれ家族の写真や自分の作品等も飾られており思い思いの生活を送っている。中には壁面一杯に本棚が置かれ棚一杯の書籍に囲まれ生活されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっている。トイレは車椅子が入れるようになっており、浴槽も安全に出入りできるよう手すりを設置している。		